



### 動物園は駆け込み寺？

8月に入っても本格的な夏とはいええないような陽気が続いています。そうはいっても夏休み、これからは海に山にどっと人が繰り出すことでしょうかぜひ動物園もその中に加えて欲しいものです。色々なイベントを用意してお待ちしています。

今日は「動物園は駆け込み寺ではありません」という話をしたいと思います。動物園の隠れた仕事として野生鳥獣の保護というのがあります。傷ついた野生動物の手当てをし、また自然に戻すというものです。よくあるのが鳥類の保護。キジやツバメ、キジバト、カモメなどはよく持ち込まれます。珍しいところではムササビやアブラコウモリ、ノウサギなどというのがあります。タヌキやハクビシンも結構あります。こうした鳥獣は、何かに衝突したり畑の網にかかったり交通事故にあたりと、何らかの外的要因により怪我をしたもので、まさに傷病動物にとってはワラにもすすがる思いでしょう。何とか自然に帰せるように、また優しい気持ちで動物園へ届けてくれた方の気持ちに報いようと、獣医が懸命に手当てをします。

しかし最近はやや安易に動物を持ち込むケースも多くなってきました。特に春から夏にかけては、生まれて間もないヒナを持ち込むケース。たまたま親鳥がいない間に巣から落ちたりするとそれを持ってくるわけですが、これは誘拐です。巣をさがして戻してあげましょう。どうしても巣が見つからない場合はお預かりしますが。

こうした野生動物の持ち込みは、説明して納得してもらうのでまだいいのですが、手に負えないのは飼えなくなったペットを預かってくれという話。ひどいのになると動物園の前に夜間ひっそりと置いていかれることもあります。また、動物園で飼ってもらえないとなると勝手に野山に放してしまうケースもあります。特に多いのが報道でも取り上げられることのあるカメなどの爬虫類。よく警察からも遺失物扱いの相談を受けます。また先日は、あるゴルフ場からクジャクが出てきて困ってる、というお話を頂きました。早速行くとおそらくペットとして飼っていたであろう立派なメスのインドクジャクでした。たぶん飼いきれなくなったかオスと違って利用価値がなくなったかで捨てたのでしょうか。

動物園としても動物たちにかわいそうな思いをさせたくはありません。しかし、飼えなくなったペットを預かることとしたら、安易にペットを飼う人がさらに増え、今以上に飼う人の倫理観が欠如するでしょう。また、それらをとっても収容しきれるものではなく動物園本来の仕事まで手が回らなくなってきます。最後まで責任をもって飼う自信がないのであれば最初から飼うのはあきらめてください。それだけ生きものを飼うというのは大変なことだと自覚すべきです。ペットとはいえ彼らもこの世に生を受けた以上、生きる権利を有するはず。人間のおもちゃにされてはたまりません。最後まで愛情をもって動物たちと接して欲しいと思います。

(平成21年8月3日 園長 生江信孝)



持ち込まれたヒナ鳥



動物園の前に…



捨てられたアカミミガメ



ゴルフ場にクジャク？

2009年8月3日

---

## 過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)